



創立100周年記念式典の式辞の中で校歌の成り立ちについて話をしましたが、説明できなかった裏話を紹介します。



## 校歌に込めた思い

最初の校歌は創立10周年の記念事業の一つとして制定されました。当時、その方法については名案が浮ばず悩まれたようです。プロに依頼すれば無難な校歌が出来ますが、そのための多額の費用はありません。そこで、当時の蔵田教頭が、米工に縁故のある人々から募集すれば費用はかからないし思いのこもった親しみ易いものが出来るかも知れないと提案されました。いざ募集してみると多数の応募があったのですが、部分的には大変優れていても全体的に見るとまとまりがなく、残念ながら校歌として相応しい作品はなかったそうです。それならばと、当時の大石聞二校長が米工職員の西方兵次先生に作詞を命じられ、応募作品の思いを忖度しながら西方先生が作詞されたのが最初の校歌です。

作曲は、当時義方小学校に勤務されており、後に大篠津小学校長になられ、さらに境高校の音楽の指導をされた松田稔先生に依頼しました。この校歌は、全国中等学校校歌作曲展に二等として入選する素晴らしい校歌となりました。

現在の校歌は米子西高校から独立する際、戦後の民主国家と教育方針に則したものを制定すべきであると職員会議で決定し、この時も学校と何らかの関係のある人をお願いしたいと検討しました。その結果、全国の歌詞募集で優秀賞を度々受けていらっしゃった下泰(しも ゆたか)さんが在校生の保護者であることがわかり、下さんなら米工の教育に対して理解があると考え、お願いすることになりました。下さんは当時後藤駅長でしたが、作詞が完成したときは大社駅長に異動されていました。下さんは本校以外にも近隣の小中学校の校歌を作詞されているようです。母校の作詞を調べてみてください。

次に作曲を誰に依頼するのか検討した結果、本校の寮歌の作曲を担当された実績から啓成小学校の音楽教諭野口萬吉郎先生に依頼し、校歌が完成しました。

最初の校歌を作詞された西方先生は、校歌に対する思いを次のように記されています。

「校歌が在校生諸子の信条として、望ましいばかりでなく、卒業生各位の信条でもあって欲しい。そして、みんながどんな苦しい時にも、悲しい時にも、校歌を歌うことによって、いつとはなしに、楽しく、明るい気分になり、又嬉しい時、よろこばしい時は、無意識のうちに、歌っているというようになって欲しいものだと、乞い願うのです。」

コロナ禍で校歌を歌う機会は少ないですが、米工生徒への思いが凝縮された校歌をいつまでも忘れず、卒業しても歌い続けてくれるようお願いしています。(⇒ [学校HPの校歌のサイトへのリンク](#))

校長 松川 明義



【行事予定】 11月16日(水)：人権LHR（3年）、性に関する指導講演会（2年）

18日(金)：防災避難訓練、計算技術検定

今週末の大会等：弓道中国新人大会（広島）、ウエイトリフティング新人戦（岩美）

サッカー新人戦（鳥取）



米工HP